

「へうけもの」織部好みの“対照の美”とは?

織部の師・利休の道具の好みは均整が取れているため、どのように取り合わせてもだいたいが調和します。しかし織部好みは、激しく歪んでいたり、背が高かったり逆に低かったりと、取り合わせが難しそうに見えます。実はここに織部独特の緻密な計算があり、細くて背の高い茶入には平たく背が低い沓形茶碗を合わせるというように、相反する性質のものを取り合わせることで、それぞれが個性を發揮しつつも、全体として調和するようになっています。それは“対照の美”、すなわち、全く性質の違うものの同士を並べ比べたとき、その違いが際立つ美と呼べるでしょう。本展では、この取り合せを再現し、水指・茶入・茶碗を三つ鼎に展示し、また、伝世品がない美濃焼の蓋を茶入に載せたり、大振りな細口の釜に織部形の大きな柄杓を取り合わせたり(「旧聞録」)して展示いたします。



2018年9月21日〔金〕――

2019年1月15日〔火〕

〔交通案内〕(公共交通機関をご利用の場合)

〔開館時間〕9時30分～17時30分(入館は17時10分まで)
〔休館日〕12月29日～1月4日

〔入館料〕大人500円／大学生・高校生400円／
中・小学生300円／未就学児無料／
団体(15人以上)100円引

一般財団法人



古田織部美術館 [検索 click](#)



The Museum of Furuta Oribe

〔後援〕京都新聞
〔協力〕京都市考古資料館
〔次回展観〕2019年1月19日〔土〕～5月21日〔火〕
「織部の子・孫と流儀の門人たち」

古田織部美術館

